



第49回 日本フィル夏休みコンサート2023



S席 子供 3,400円/大人 5,400円
A席 子供 2,700円/大人 4,400円
B席 子供 2,000円/大人 3,400円

※ 子供 = 4歳～高校生
 ※ 4歳未満は入場できません。
 チケットはお一人一枚ご用意ください。

～プログラム～

第1部

♪エルガー：《威風堂々》第1番
 ♪パッヘルベルのカノン
 ♪ハチャトゥリアン：《剣の舞》

第2部

—— バレエ (7/15～30) ——
 ♪プロコフィエフ：バレエ《シンデレラ》
 —— ピアノ (8/4～6) ——
 ♪モーツァルト：《トルコ行進曲》
 ♪ショパン：《別れの曲》
 ♪チャイコフスキー（上原彩子編曲）：
 「花のワルツ」
 ♪ベートーヴェン：
 ピアノ協奏曲第5番《皇帝》第1楽章

第3部

♪さんぽ ♪赤とんぼ ♪勇気 100%

第2部 バレエ



7月15日 土 14:00 相模女子大学グリーンホール
 7月22日 土 13:00 & 16:30 横浜みなとみらいホール
 7月23日 日 14:00 江戸川区総合文化センター
 7月24日 月 14:00 ウェスタ川越
 7月28日 金 13:00 & 17:00 東京芸術劇場
 7月29日 土 13:00 & 16:30 ソニックシティ
 7月30日 日 13:00 & 16:30 サントリーホール

指揮：梅田俊明 お話とうた：江原陽子
 バレエ：スターダンサーズ・バレエ団
 バレエ演出・振付：鈴木稔



第2部 ピアノ



8月4日 金 14:00 柏市民文化会館
 8月5日 土 13:00 & 16:30 サントリーホール
 8月6日 日 13:00 & 16:30 横浜みなとみらいホール

指揮：大井剛史 お話とうた：江原陽子
 ピアノ：上原彩子



【お申し込み】日本フィル・サービスセンター ☎ 03-5378-5911 (平日 11時～17時)
 eチケット ♪ eticket.japanphil.or.jp



日本フィルハーモニー交響楽団
 JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第386回

横浜定期演奏会

386th YOKOHAMA Subscription Concert

2023年4月22日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm April 22nd (Sat.), 2023, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催：公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団
 後援：神奈川新聞社、+vkk
 協力：横浜みなとみらいホール
 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（創造団体支援））
 独立行政法人日本芸術文化振興会

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。
 JAPAN
 PHILHARMONIC
 ORCHESTRA
 — 創立指揮者 渡邊 暁雄 —



文化庁



日本フィル横浜定期演奏会 50周年 〈横浜カルチュラル・ワンダーランド〉

もっと楽しく、もっと面白く、より深く！〈横浜カルチュラル・ワンダーランド〉をコンセプトに、歴史、美術、文学… 文化と音楽が響き合う新しいコンサートの楽しみ方を発信いたします。コンセプト監修に横浜国立大学教授の小宮正安氏を迎え、知れば知るほど楽しい時間をお届けしてまいります。

朝日カルチャーセンター横浜教室

横浜定期関連講座 第4弾 開催決定！

「社会文化史から読み解くクラシック」講座

2023年6月10日(土) 11:00~12:30

講師：小宮正安(横浜国立大学教授)、丸山 勉(客演首席ホルン)

第389回 横浜定期演奏会(7/1)のプログラムをテーマに、社会文化史から読み解くモーツァルトとストラヴィンスキーの時代を学びます。

また楽員のお話と演奏を交えた解説も。

詳細は決まり次第ホームページにてお知らせいたします。

Member's TVU CHANNEL CLASSICAL MUSIC

クラシカルミュージック <https://members.tvuch.com/>



↑詳細はこちら

本日の公演は
ライブ配信あり！
1,000円！

アーカイブ配信中

- 指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者] ムソルグスキー(ラヴェル編)：組曲《展覧会の絵》他 **最新！**
- 指揮：広上淳一 [フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)] ショパン：ピアノ協奏曲第1番(小林愛実) 他
- 指揮：カーチュン・ウォン [首席客演指揮者] ラフマニノフ：交響曲第2番 他
- 出演：SUPER BRASS STARS Spain・宝島 他

————— 4月の横浜定期演奏会もライブ配信予定です！ —————

「異界が呼び覚ます故郷への思い」

チェロ協奏曲の定番ともいえるドヴォルジャークの『チェロ協奏曲』を中心に、ヴェテラン・チェロ奏者のソッリマと気鋭の指揮者原田が登場する。壮年期のドヴォルジャークは、故郷のチェコを遠く離れ、当時の人々にとっては異界ともいえるアメリカで活動をおこなうが、アメリカでの新たな体験がかえってチェコ人としての誇りを呼び覚ました。一方、吉松隆の交響曲は「鳥と天使」が飛び交い、西洋様式の中に日本が見え隠れする。「異界が呼び覚ます故郷への思い」を、しかと聴き取れる一夜である。

Programs

ドヴォルジャーク：

チェロ協奏曲 口短調 op.104 B.191 (約40分)

Antonín DVOŘÁK:

Concerto for Violoncello and Orchestra in B-minor, op.104, B.191

————— 休憩 (15分) Intermission —————

吉松 隆：

交響曲第6番《鳥と天使たち》op.113 (約30分)

YOSHIMATSU Takashi:

Symphony No.6 "Birds and Angels" op.113

指揮：原田慶太楼

Conductor: HARADA Keitaro

チェロ：ジョヴァンニ・ソッリマ

Violoncello: Giovanni SOLLIMA

コンサートマスター：扇谷泰朋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

指揮：原田慶太楼

現在、アメリカ、ヨーロッパ、アジアを中心に目覚ましい活躍が続いている期待の俊英。

シンシナティ交響楽団およびシンシナティ・ポップス・オーケストラ、アリゾナ・オペラ、リッチモンド交響楽団のアソシエイト・コンダクターを経て、2020年シーズンから、アメリカジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニックの音楽&芸術監督に就任。

ヒューストン、インディアナポリス、メンフィス、ルイジアナ、ウエストバージニア、ツーソン、フェニックス、ハワイ等のオーケストラと共演。国内でも様々なオーケストラと共演。オペラ指揮者としても実績が多く、アリゾナ・オペラのアシスタント・コンダクターとして、『ドン・バスクワレ』『連隊の娘』『カルメン』『トスカ』ほかの作品を手がけてきた。シンシナティ・オペラ、ブルガリア国立歌劇場、ノースカロライナ・オペラで活躍。国内ではフェニーチェ堺のオペラに登場。2010年タンゲルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞、2013年ブルーノ・ワルター指揮者プレビュー賞、米国ショルティ財団キャリア支援賞を6度、2023年には日本人初となるトップコンダクター賞を受賞。

1985年東京生まれ。インターロッケン芸術高校音楽科において、指揮をF.フェネルに師事。指揮法をロシアのサントペテルブルクで学び、2006年21歳のときにモスクワ交響楽団を指揮してデビュー。2009年、ロリン・マゼール主催の音楽祭「キャッソルトン・フェスティバル」にマゼール氏本人の招待を受けて参加。2010年には音楽監督ジェームズ・レヴァインの招聘を受けてタンゲルウッド音楽祭に参加、2011年には芸術監督ファビオ・ルイジの招聘によりPMFにも参加。これまでに、ロバート・スパン、マイケル・ティルソン・トーマス、オリバー・ナッセン、ヘルベルト・ブロムシュテット、ステファン・アズベリーなどに師事。オーケストラやオペラのほか、室内楽、バレエ、ポップスやジャズ、そして教育的プログラムにも積極的に携わっている。

2021年4月東京交響楽団正指揮者に就任。

第29回(2021年度)渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。

第20回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

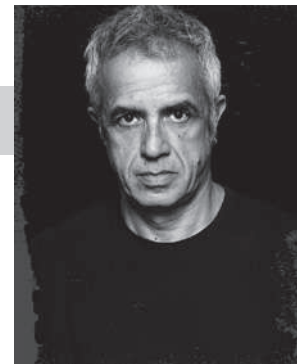
オフィシャル・ホームページ：kharada.com/@KHconductor



チェロ：ジョヴァンニ・ソッリマ

1962年イタリア・シチリア州パレルモ出身。チェロ奏者兼作曲家。音楽一家に生まれ、作曲家兼ピアニストのエリオドロ・ソッリマを父に持つ。シュトゥットガルト音楽大学とモーツァルテウム音楽大学で、チェロをアントニオ・ヤニグロ、作曲をミルコ・ケレメンに師事。1998年にフィリップ・グラスのプロデュースのもと、アルバム・デビュー。

これまでにリカルド・ムーティ(指揮者)、マルタ・アルゲリッチ(ピアニスト)、クラウディオ・アバド(指揮者)、世界的チェリストのヨーヨー・マ、マリオ・ブルネロ、ミッシェル・マイスキーらとも共演。クラシックを基に、バロック、オペラ、そして、ロックに即興まで、400年に渡る音楽の歴史を自在に旅し、民族音楽まで飲み込んだシチリアならではの自由な作風を持つ。大自然の息吹と太古からの魂をチェロに込め、森羅万象の美を歌う。日本には、2004年に〈東京の夏〉音楽祭でM・ブルネロと初来日。2019年に「100チェロ」公演とともに、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団(指揮：藤岡幸夫)のソリストとして出演。今回は、初めての「無伴奏チェロ」コンサート・ツアーを全国で実施。氷のチェロを弾くソッリマのドキュメンタリー映画『氷のチェロ物語』(原題：N-Ice Cello-Tale of the Ice Cello)も来日時に特別公開。



オーケストラガイド

16時20分より大ホールにて♪

音楽家・齋藤弘美(作曲・音楽評論)

福島市出身。武蔵野音楽大学大学院修了。作曲専攻。日本作曲家協議会会員。近年は「能」に関わる作品の創作発表を行う。また長年バレエ音楽、現代音楽を専門に音楽評論も続け、レコード芸術、音楽の友、CDジャーナルなどの音楽専門雑誌の執筆者としても携わる。最近では世界初となる和声学習ソフト「デスクトップハーモニー」の監修を行っている。

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご要望の方は主催受付までお申し出ください。

お客様へのお願い

演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声などで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

ドヴォルジャーク：チェロ協奏曲 短調 op.104 B.191

19世紀が深まるにつれ、ヨーロッパ社会では民族自決を旗頭に掲げた国家独立の機運が高まり、音楽作品にも地方的な民族色が濃く表れていった。いわゆる“国民主義”と呼ばれる作曲家たちが、東欧や北欧などに輩出する時代である。

そうした中で、ボヘミア（チェコ）を代表する作曲家となったのが、アントニン・ドヴォルジャーク（1841-1904）であった。彼はヨーロッパにおいて既に名声を得ていた晩年の1892年に、ニューヨークのナショナル音楽院の院長に就任。3年のアメリカ滞在中に多くの名作を生み出したが、帰国直前の1894年から翌年2月にかけて作曲されたこのチェロ協奏曲も、アメリカ滞在記の結実の一つと言えるだろう。ドヴォルジャークは渡米前、1891年暮れから翌年春にかけて同郷のチェリスト、ハヌシュ・ヴィーハン（1855-1920）と共にボヘミア地方へ演奏旅行しており、この旅行をきっかけとしてチェロ協奏曲の作曲が進められた。そして帰国後の1895年6月には、このヴィーハンの示唆を受けて、一旦完成されたスコアのソロパートに若干の変更を加えている。初演は1896年3月19日、ロンドンにおいて作曲者自身の指揮、イギリスの名チェリスト、レオ・スターン（1862-1904）の独奏で行われた。ドヴォルジャーク天性のボヘミアの音楽と、アメリカで接した先住民の民謡や黒人霊歌の持つ哀調を帯びた叙情性とは見事に溶け合った、古今の数少ないチェロ協奏曲の傑作として今なお多くのチェリストに愛奏されている。

第1楽章：アレグロ、短調、4分の4拍子、協奏的ソナタ形式。

第2楽章：アダージョ・マ・ノン・トロppo、長調、4分の3拍子、三部形式。

第3楽章：アレグロ・モデラート、短調、4分の2拍子、自由なロンド形式

楽器編成 独奏チェロ、フルート2（ピッコロ持替1）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、弦楽5部。

吉松 隆：交響曲第6番《鳥と天使たち》op.113

私にとって「鳥」と「天使」（そして「星」）は、自分の音楽のイメージを支える重要なテーマである。「鳥」は（音楽家として人間の先輩であると同時に）空を飛びひたすら歌を囀る自由なものであり、「天使」は人間を傍観しながら透明にただ浮遊するものである。

そんな2つの存在について60歳を迎えて改めて回顧したのが、夢の中に浮かぶ鳥と天使の絵が描かれた「音のおもちゃ箱」。それが今回の交響曲の最初のイメージだった。

第1楽章：右方の鳥（Bird in Right）

第2楽章：忘れっぽい天使たち（Forgetful Angels）

第3楽章：左方の鳥（Bird in Left）

楽章はコンパクトに急・緩・急の3つ。右方と左方というのは、雅楽で言う「右方の舞（高麗楽）」と「左方の舞（唐楽）」のもじり。と同時に、右の鳥は「光の」という意味の「In Light」の日本語なまり、左の鳥は日本語の「酉（とり）」に「ヰ（さんずい）」をつけると「酒」なので、「左利き」（酒飲みの隠語）という洒落。まあ、他愛のない言葉遊びのようなものなので「ふーん」と聞き流して頂ければそれでいい。

もうひとつの「忘れっぽい天使」の方は、パウル・クレーの有名なペン画。人の生き死にをコントロールするのは全能で冷酷な「神さま」だが、それに対して、人の出会いや別れを担当するのは忘れっぽくてトロい「天使」。そんなイメージがこの落書きのような絵を見ているとひしひしと感じられる。

さらに、そんな「鳥と天使たち」の絵が描かれた箱（交響曲）なので、色々なものが「記憶」として雑多に紛れ込んでいる。第6番…ということでSibelius、Beethoven、Tchaikovskyは勿論（笑）、タルカスや私の旧作の幾つか、そして60年代に勉強した前衛音楽のサウンドやJAZZのリズムも走馬燈のように交叉する。

タイプとしては第4番（2000）と姉妹作品で「Pastoral（田園）」的な「Toy（おもちゃ）」のシンフォニーなのだが、楽譜は鬼のような変拍子と転調が渦巻き、高度なアンサンブルの精度とテクニックが要求される。

いずみシンフォニエッタの委嘱により2013年春より作曲を始めて6月に完成。同年7月13日 いずみシンフォニエッタ定期演奏会にて飯森範親指揮（いずみホール）で初演。op.113。

吉松 隆

楽器編成 フルート1（オカリナ持替1）、オーボエ1（オカリナ持替1）、クラリネット1（オカリナ持替1）、ファゴット1（オカリナ持替1）、ホルン2、トランペット1、トロンボーン1、ハープ1、ピアノ1、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、タンブリン、貝鳴子、ヴィブラフォン、ガラガラ、ウッドブロック、カバサ、マラカス、スライドホイッスル、バードコール、鈴、カスターネット、マリンバ、アンティークシンバル、ウィンドチャイム、ボンゴ、ハイハット、りん、ウィンドベル、トムトム、銅鑼、弦楽5部。

吉松 隆

1953年東京生まれ。1981年「朱鷺によせる哀歌」でデビュー。「現代音楽」の非音楽的な傾向に異を唱え、調性やメロディを復活させた独自の作曲活動を展開。交響曲6曲や協奏曲10曲などの管弦楽作品を中心に、室内楽作品、〈ブレイアデス舞曲集〉などのピアノ作品など数多くの作品を発表する。作品のほとんどがCD化され、世界中のファンの支持を得ている。



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安



ドヴォルジャーク『チェロ協奏曲』秘話

ドヴォルジャークのアメリカ時代の傑作として知られる『チェロ協奏曲』。だが当時の彼は重度のホームシックに罹っており、ついにはナショナル音楽院の院長の職を辞して、ヨーロッパへと帰ってしまう…。

逆に言えばそこまで、ドヴォルジャークは自らが生まれ育ったヨーロッパに深いルーツを感じていた、ということだろう。そんな彼が、なぜわざわざアメリカへ渡ったのか。もちろんそこに、ナショナル音楽院から示された破格の報酬があったにしても…。

現在でこそ「チェコの音楽家」と言われているドヴォルジャークだが、当時のチェコは、ハプスブルク家の君臨するオーストリアの支配下にあった。ところがヨーロッパの各地で民族運動が高まりを見せる中、チェコでも当のオーストリアから独立しようという動きが盛んになってゆく。

いっぽうのドヴォルジャーク自身は、祖国がオーストリアの支配を受ける中、好むと好まざるとにかかわらずオーストリア…特にその都であるウィーンと密接な繋がりを持ち、音楽家として頭角を現していった。にもかかわらず、チェコの民族運動が盛んになる中で、彼はウィーンにおいて度々「オーストリアに齒向かうチェコ人」と見なされるようになってゆく。

つまり、自分自身が根無し草の存在であることを痛感していたからこそ、ドヴォルジャークは新天地アメリカへ渡ったのだろう。だがそこにも結局のところ、安住の地はなかった。しかもそこへ、ヨーロッパに残してきた義理の姉…ドヴォルジャークは若き日に、彼女に想いを寄せていたこともある…が重篤に陥ったという報せまで届く。(彼女は結局、ドヴォルジャークの帰国直後に亡くなってしまう)。

このように考えると、よく分かるだろう。第1楽章の第2主題のメロディが、なぜここまでやるせないのか。安らぎに満ちているはずの第2楽章の中間部に、なぜ突然ほの暗いテーマが現れるのか。なおこのテーマは、義理の姉のために若き日のドヴォルジャークが書いた歌曲『一人にさせて』に基づいている。当時のドヴォルジャークの置かれた政治的、社会的、さらに個人的状況を思う時、それはきわめて意味深長な題名ではなかったか。



(ヨゼフィーナ・チェマルコーヴァ)
ドヴォルジャークのかつての恋人であり、彼女の重篤の報を受ける中で彼の『チェロ協奏曲』は書き進められた

Next YOKOHAMA

第387回横浜定期演奏会

～森林への回顧 楽園への回帰～

2023年5月20日(土) 17:00 横浜みなとみらいホール

指揮: ピエタリ・インキネン [首席指揮者]

ソプラノ: 森谷真理 アルト: 池田香織 テノール: 宮里直樹

バリトン: 大西宇宙 合唱: 東京音楽大学

[ベートーヴェン・ツィクルス Vol.6]

シベリウス: 交響詩《タピオラ》op.112

ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》二短調 op.125

© Mechthild Schneider



ピエタリ・インキネン

インキネン首席
ファイナル!

S ¥9,000 A ¥7,500 B ¥7,000 C ¥6,000 P 合唱団席 Ys (25歳以下) ¥3,500

※Ys席はS席以外から選べます。※車いすおよび障害者手帳をお持ちの方は、サービスセンターへお問い合わせください。

にじくら ～トークと笑顔と、音楽と セット券

サントリーホール ナビゲーター & 語り: 高橋克典

第1回

2023年5月2日 火 14:00

指揮: 永峰大輔 ヴァイオリン: 神尾真由子

パガニーニ: ヴァイオリン協奏曲第1番

モーツァルト: 歌劇《ドン・ジョヴァンニ》序曲

プロコフィエフ: 交響的物語《ピーターと狼》(語りつき)



© N. IKEGAMI

第2回

2023年9月26日 火 14:00

指揮: 広上淳一 ヴァイオリン: 成田達輝 ピアノ: 萩原麻未

サン＝サーンス (イザイ編曲): ワルツ形式の練習曲によるカプリース

モーツァルト: ピアノ協奏曲第21番より 第2楽章

メンデルスゾーン: ヴァイオリン、ピアノと弦楽のための協奏曲より 第3楽章

チャイコフスキー: 幻想序曲《ロメオとジュリエット》



© Masaaki Tomitori

第3回

2024年2月2日 金 14:00

指揮: 大井剛史 ピアノ: 小林愛実

モーツァルト: ピアノ協奏曲第9番「ジュノム」

ドビュッシー (カブレ編曲): 《子供の領分》 フォーレ (ラポー編曲): 組曲《ドリー》



© K. Miura

3公演セット券 S ¥13,500 A ¥9,900

1回券 (5/2): S席 ¥5,500 A席 ¥3,800 S席ペア ¥10,000 (S席2枚)

■ 6月公演出演者及びプログラム変更のお知らせ

2023年6月3日(土) 第388回横浜定期演奏会、並びに6月9日(金)、10日(土) 第751回東京定期演奏会に出演予定でした桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフの招聘は断念することとなりました。内容を変更して開催いたします。

第388回 横浜定期演奏会

2023年6月3日(土) 17時
横浜みなとみらいホール

指揮:小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]
ピアノ:小山実稚恵

チャイコフスキー:

ピアノ協奏曲第1番
シューマン:交響曲第4番

第751回 東京定期演奏会

2023年6月9日(金) 19時/10日(土) 14時
サントリーホール

指揮:大植英次 ピアノ:阪田知樹
ワグナー:楽劇《トリスタンとイゾルデ》より
「前奏曲と愛の死」
プロコフィエフ:ピアノ協奏曲第2番
チャイコフスキー:交響曲第6番《悲愴》

■退団のお知らせ

トロンボーンの岸良開城が2023年3月31日付で退団いたしました。1988年4月に研究員として入団しトロンボーン・セクションの要として活躍してまいりました。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

■テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組!『Welcome クラシック』BS朝日 毎週水曜日 22:54~23:00 (第3週、第4週は再放送)。4月~6月は広上マエストロ。ぜひご覧ください!

■本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です。

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

- 公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。
- 会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願いいたします。
- ご寄付いただいた定期会員の皆様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。
心より御礼申し上げます。

3月の寄付者 匿名2名

敬称略・五十音順

日本フィル・サービスセンター
〒166-0011
東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911 (平日11時~17時)
FAX: 03-5378-6161 (24時間)
e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食: 下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで) ※除外日および対象外メニューあり

オールディダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/日本料理「大志満」
中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。
※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 (1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊曉雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッドラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ
- 首席指揮者/ビエタリ・インキネン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO (芸術顧問) /広上淳一
- 首席客演指揮者/カーチュン・ウォン

公式Twitter
@Japanphil

LINE 公式
アカウント

ソロ・コンサートマスター

扇谷泰朋
木野雅之
田野倉雅秋
アシスタント・
コンサートマスター
千葉清加

第1ヴァイオリン

伊藤太郎
太田麻衣
九鬼明子
齋藤政和
榎 渚
竹歳夏鈴
谷崎大起
田村昭博
中谷郁子
西村優子
平井幸子
本田純一

第2ヴァイオリン

遠藤直子
大貫聖子
岡田紗弓
加藤祐一
○神尾あずさ
川口 貴
佐藤駿一郎
末廣紗弓
豊田早織
町田 匡
山田千秋
ヴィオラ

☆安達真理

小俣由佳
小中澤基道
児仁井かおり
高橋智史
中川裕美子
中澤とも子
松澤雅奈

ホルン

伊藤 舜
宇田紀夫
○信末碩才
原川翔太郎
☆丸山 勉
村中美菜

ソロ・チェロ

菊地知也
チェロ
石崎美雨
伊堂寺 聡
江原 望
大澤哲弥
久保公人
山田智樹

コントラバス

鈴木優介
○高山智仁
成澤美紀
○宮坂典幸
□森田麻友美
山口雅之
フルート
齋藤光晴
難波 薫
○真鍋恵子
オーボエ
佐竹真登
○杉原由希子
○松岡裕雅
クラリネット
○伊藤寛隆
○楠木 慶
照沼夢輝
堂面宏起
ファゴット
大内秀介
○鈴木一志
○田吉佑久子
中川日出鷹

バズ

○エリック・バケラ
パーカッション
大河原 渉
ハーブ
松井久子
楽団長
中根幹太
チーフステージマネージャー
阿部紋子
ステージスタッフ
長橋健太
森田大翔
チーフインスペクター
佐藤駿一郎
インスペクター
宇田紀夫
鈴木優介
ライブラリアン
鬼頭さやか
杉本哲也

エリック・バケラ

バークッション
大河原 渉
ハーブ
松井久子
楽団長
中根幹太
チーフステージマネージャー
阿部紋子
ステージスタッフ
長橋健太
森田大翔
チーフインスペクター
佐藤駿一郎
インスペクター
宇田紀夫
鈴木優介
ライブラリアン
鬼頭さやか
杉本哲也

首席奏者

○首席奏者
○副首席奏者
☆客演首席奏者
□試用期間

ソロ・トランペット

オッタビアーノ・
クリスト・フォリ
トランペット
◎大西敏幸
中里州宏
中務朋子
星野 究
トロンボーン
◎伊藤雄太
バス・トロンボーン
中根幹太
チューバ
柳生和大
ティンパニ
◎エリック・バケラ

バス・トロンボーン

中根幹太
チューバ
柳生和大
ティンパニ
◎エリック・バケラ
パーカッション
大河原 渉
ハーブ
松井久子
楽団長
中根幹太
チーフステージマネージャー
阿部紋子
ステージスタッフ
長橋健太
森田大翔
チーフインスペクター
佐藤駿一郎
インスペクター
宇田紀夫
鈴木優介
ライブラリアン
鬼頭さやか
杉本哲也

パーカッション

大河原 渉
ハーブ
松井久子
楽団長
中根幹太
チーフステージマネージャー
阿部紋子
ステージスタッフ
長橋健太
森田大翔
チーフインスペクター
佐藤駿一郎
インスペクター
宇田紀夫
鈴木優介
ライブラリアン
鬼頭さやか
杉本哲也

チューバ

柳生和大
ティンパニ
◎エリック・バケラ
パーカッション
大河原 渉
ハーブ
松井久子
楽団長
中根幹太
チーフステージマネージャー
阿部紋子
ステージスタッフ
長橋健太
森田大翔
チーフインスペクター
佐藤駿一郎
インスペクター
宇田紀夫
鈴木優介
ライブラリアン
鬼頭さやか
杉本哲也

ティンパニ

◎エリック・バケラ
パーカッション
大河原 渉
ハーブ
松井久子
楽団長
中根幹太
チーフステージマネージャー
阿部紋子
ステージスタッフ
長橋健太
森田大翔
チーフインスペクター
佐藤駿一郎
インスペクター
宇田紀夫
鈴木優介
ライブラリアン
鬼頭さやか
杉本哲也

理事長(代表理事)

平井俊邦
副理事長(代表理事)
五味康昌
常務理事(代表理事)
後藤朋俊
常務理事(代表理事)
中根幹太
常務理事(代表理事)
福井英次
理事
石井啓一郎
遠藤 滋
佐々木経世
田村浩章
戸所邦弘
福本ともみ

監事

上條貞夫
福澤英哉
評議員会会長
加藤丈夫
評議員
青井 浩
安孫子 正
荒藤康一郎
石塚邦雄
石村 等
稲垣 尚
内川清雄
大塚宣夫
海堀周造
梶浦卓一
河北博文
喜多崇介
木村恵司
久保田 隆
小林研一郎
島田精久
津田義久
西澤 豊
野間省伸
葉田順治
村上典史子
山口多賀幸

名誉顧問

熊谷直彦
島田晴雄
田邊 稔
アドバイザリー・ボード
大島 剛
小野敏夫
小網忠明
後藤 茂
武田隆男
田邊 稔
溝口文雄
コミュニケーション・ディレクター
マイケル・スペンサー
マネジメント・スタッフ
浅見浩司
磯部一史
江原陽子
及川ひろか
小山 清
斎藤千種
佐々木裕司
菅原 光
高木雄司
高木 洋
高倉理実
田沢 烈
立川和男
堂阪俊子
豊盛尚代
富田尚生
中川二朗
永田健一
中務幸彦
奈切敏郎
橋本 洋
畑井紀代子
平賀法子
福島喜裕
松本克己
松本伸二
三本克郎
宮武良平
三好明子
森 茂
山下進三
山科淑子
山本辰夫
渡辺智雄

名誉顧問

熊谷直彦
島田晴雄
田邊 稔
アドバイザリー・ボード
大島 剛
小野敏夫
小網忠明
後藤 茂
武田隆男
田邊 稔
溝口文雄
コミュニケーション・ディレクター
マイケル・スペンサー
マネジメント・スタッフ
浅見浩司
磯部一史
江原陽子
及川ひろか
小山 清
斎藤千種
佐々木裕司
菅原 光
高木雄司
高木 洋
高倉理実
田沢 烈
立川和男
堂阪俊子
豊盛尚代
富田尚生
中川二朗
永田健一
中務幸彦
奈切敏郎
橋本 洋
畑井紀代子
平賀法子
福島喜裕
松本克己
松本伸二
三本克郎
宮武良平
三好明子
森 茂
山下進三
山科淑子
山本辰夫
渡辺智雄

シニア・パートナー

新井康久
伊波 睦
永島義郎
南部洋一

団友

青柳哲夫
青山 均
赤堀泰江
新井豊治
石井啓一郎
伊藤恒男
伊波 睦
遠藤 功
遠藤剛史
大石 修
大川内 弘
大味 修
寛 美知子
金本順子
蒲谷隆行
川口和宏
菊田秋一
岸良開城
吉川利幸
木村正伸
小林俊夫
小山 清
斎藤千種
佐々木裕司
菅原 光
高木雄司
高木 洋
高倉理実
田沢 烈
立川和男
堂阪俊子
豊盛尚代
富田尚生
中川二朗
永田健一
中務幸彦
奈切敏郎
橋本 洋
畑井紀代子
平賀法子
福島喜裕
松本克己
松本伸二
三本克郎
宮武良平
三好明子
森 茂
山下進三
山科淑子
山本辰夫
渡辺智雄

青柳哲夫

青山 均
赤堀泰江
新井豊治
石井啓一郎
伊藤恒男
伊波 睦
遠藤 功
遠藤剛史
大石 修
大川内 弘
大味 修
寛 美知子
金本順子
蒲谷隆行
川口和宏
菊田秋一
岸良開城
吉川利幸
木村正伸
小林俊夫
小山 清
斎藤千種
佐々木裕司
菅原 光
高木雄司
高木 洋
高倉理実
田沢 烈
立川和男
堂阪俊子
豊盛尚代
富田尚生
中川二朗
永田健一
中務幸彦
奈切敏郎
橋本 洋
畑井紀代子
平賀法子
福島喜裕
松本克己
松本伸二
三本克郎
宮武良平
三好明子
森 茂
山下進三
山科淑子
山本辰夫
渡辺智雄

菅原 光

高木雄司
高木 洋
高倉理実
田沢 烈
立川和男
堂阪俊子
豊盛尚代
富田尚生
中川二朗
永田健一
中務幸彦
奈切敏郎
橋本 洋
畑井紀代子
平賀法子
福島喜裕
松本克己
松本伸二
三本克郎
宮武良平
三好明子
森 茂
山下進三
山科淑子
山本辰夫
渡辺智雄

高木雄司

高木 洋
高倉理実
田沢 烈
立川和男
堂阪俊子
豊盛尚代
富田尚生
中川二朗
永田健一
中務幸彦
奈切敏郎
橋本 洋
畑井紀代子
平賀法子
福島喜裕
松本克己
松本伸二
三本克郎
宮武良平
三好明子
森 茂
山下進三
山科淑子
山本辰夫
渡辺智雄

高倉理実

田沢 烈
立川和男
堂阪俊子
豊盛尚代
富田尚生
中川二朗
永田健一
中務幸彦
奈切敏郎
橋本 洋
畑井紀代子
平賀法子
福島喜裕
松本克己
松本伸二
三本克郎
宮武良平
三好明子
森 茂
山下進三
山科淑子
山本辰夫
渡辺智雄